

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第5部門第2区分

【発行日】平成26年9月11日(2014.9.11)

【公表番号】特表2013-536928(P2013-536928A)

【公表日】平成25年9月26日(2013.9.26)

【年通号数】公開・登録公報2013-052

【出願番号】特願2013-527079(P2013-527079)

【国際特許分類】

F 16 H 7/12 (2006.01)

【F I】

F 16 H 7/12 A

【手続補正書】

【提出日】平成26年7月22日(2014.7.22)

【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

第1軸線を中心にして回転可能なアームがあり、前記アームが、内部キャビティと一部に貫通スロットとを設けたアームアーバーを有し、且つ前記アームアーバーが直径を固定されており、

凸部を有したブッシュであって、この凸部が前記スロットを通り抜けて伸延し且つ前記アームアーバーの前記内部キャビティまで延びる大きさであり、そして、前記アームアーバーの前記スロットを通過して前記内部キャビティに入るまで延びている前記凸部を有する前記ブッシュが、前記アームアーバーに隣接配置され、

前記アームに操作可能に結合されたバネであって、前記凸部に並列するコイルと共に前記アームアーバーの内部キャビティの中に設けた前記バネであり、

前記バネが、エンドレス動力伝達要素に張力を与える係合のために、前記アームを前記第1軸線の周りで回転させて、

前記ブッシュの前記凸部が前記バネに連係する位置関係にあって、前記張力を与える係合の方向とは逆方向に前記アームが回転すると、前記バネのコイルが前記ブッシュの前記凸部に接触して押し当てて半径方向に拡がり、

摩擦ダンパ作用を発揮するために、前記バネの径方向の拡がりが、前記アームアーバーに対して前記ブッシュを半径方向外側に押圧することを特徴とするテンショナ。

【請求項2】

前記ブッシュは縦長のスリットを有し、このスリットによって前記ブッシュが半径方向に伸張できる請求項1に記載のテンショナ。

【請求項3】

前記ブッシュが、前記凸部を有するスリープを有し、このスリープがこのスリープの一端から外側に延長するフランジを有した請求項1に記載のテンショナ。

【請求項4】

前記ブッシュのスリープがおむね円筒形である請求項3に記載のテンショナ。

【請求項5】

前記アームが、第2軸線を中心にして回転自在に取り付けられたベルト車を有し、この第2軸線が前記第1軸線から平行離間している請求項1に記載のテンショナ。

【請求項6】

さらに、支持部材を有し、前記ブシュを前記支持部材に隣接させて、かつ前記アームアーバーが前記バネと前記ブシュとの間に介在した状態で、この支持部材が前記バネ、前記アームアーバーおよび前記ブシュを収容する請求項1に記載のテクニクナ。

【請求項7】

前記バネの前記半径方向伸張によって、前記ブシュが前記支持部材と摩擦係合し、前記摩擦ダンパ作用を発揮する請求項6に記載のテクニクナ。

【請求項8】

前記支持部材が静止部材であり、かつ前記第1軸線になるシャフトを有し、前記アームをこのシャフトに回転自在に取り付けた請求項6に記載のテクニクナ。

【請求項9】

さらに、前記バネを前記テクニクナに封じ込めるキャップからなる請求項1に記載のテクニクナ。

【請求項10】

前記バネの第1端部を前記アームに連結し、そして第2端部を前記キャップに連結した請求項9に記載のテクニクナ。

【請求項11】

非対称性ダンパ作用を発揮する請求項1に記載のテクニクナ。